

お名前、ご所属、お電話番号、参加日をご明記の上、FAXにてお申込み下さい。

FAX

072-662-8155

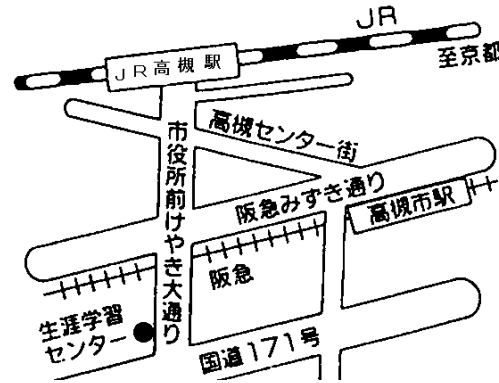
締切・・・7月10日(金)まで

<お問合せ> ☎072-662-8133 (担当: かわべ 河辺)

<会場/アクセス> 「高槻市立生涯学習センター」

※定員を超えてご参加いただけない場合のみ、ご連絡いたします。

※ビデオやテープ録画録音はお断りをさせていただいております。



## 第2回北摂杉の子会研修セミナー 参加申込用紙

送信先→社会福祉法人北摂杉の子会 すぎのこセミナー担当行 FAX:072-662-8155

※必要事項をご記入、及び該当箇所に○印をつけていただき、7月10日(金)までにFAXでお申込み下さい。

※保護者の方はご所属の欄に「保護者」とご記入ください。

ふりがな 参加者氏名	ご所属 施設/機関名	ご職種等 ※当てはまるものに ○を付けて下さい
		保護者/福祉職員/ その他 ( )
		保護者/福祉職員/ その他 ( )
		保護者/福祉職員/ その他 ( )

ご住所 〒

連絡先 TEL

FAX

### ※参加費振込方法

後日郵送いたします請求書をご確認の上、ご案内の口座に7月17日(金)までにお振込みをお願いいたします。複数名でお申し込みの際は、請求先担当者をご記入ください。なお、領収書は銀行へのお振込記録をもって代えさせていただきます。お申込後の参加費は返金いたしません。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

【備考欄 ご質問等ございましたら、お気軽にお書きください。】



## 第2回 北摂杉の子会研修セミナー

### 知的障がいのある人たちの

### 高齢化の課題と暮らしの支援を考える

以前はできていたのに、介助がないと入浴や排泄など身の回りのことができない、バスに一人で乗り込むことができていたのにスタッフの手伝いが必要になった・・・転倒による骨折や疾病などをきっかけに機能が低下していく人たちがいます。障がい特性により、医療との関係が築けない人もいます。北摂杉の子会では、3年前に重度高齢化対策プロジェクトを立ち上げ、ご利用者が地域で安心して暮らせる方策を検討してきました。

50歳を過ぎると認知症の人も出てくるようです。知的障がい者が認知症になるとどのような課題があるのでしょうか？そこで、4人に1人が50歳以上の利用者である国立のぞみの園の研究部長である志賀利一氏に「50歳からの支援」というテーマでご講演いただきます。志賀氏は知的障がい者の認知症の判別テストも開発されています。

また、午後には志賀氏に加えて、国に対して様々な政策提言をし、知的障がい者の暮らしやすい生活を実現されてきたNPO法人全国地域生活支援ネットワークの福島龍三郎氏、水流源彦氏をシンポジストにお迎えし、高齢化した知的障がい者の支援や環境調整、地域生活を支える仕組み・制度などについて討論します。この機会にぜひ知的障がい者の高齢化について認識を深めることができたら幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

■日 時：平成27年7月28日(火) 受付 9:30～  
講演 10:00～12:00 シンポジウム 13:00～16:00

■会 場：高槻市立 生涯学習センター 多目的ホール

■参加費：¥3000

■定 員：300名

■主 催：社会福祉法人 北摂杉の子会

後 援：高槻市(予定)、NPO法人全国地域生活支援ネットワーク

■申し込み方法は裏面をご参照ください。

## <プログラム内容>

### 午前

10:00~12:00 基調講演『50歳からの支援』

講師：国立のぞみの園 研究部長 志賀 利一氏

ご利用者が50歳を過ぎたころから、今までの支援と違う支援が求められることに気づき、支援者は戸惑いを覚えるようになります。知的障がいに加えて認知症の症状が出てくるご利用者もいます。知的障がいがあるが故に求められる高齢利用者の合理的な配慮等について、国立のぞみの園の現状をもとにした最新の研究結果についてご講演いただきます。

### 講師紹介

#### 志賀 利一氏

独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園 事業企画局研究部長  
大学を卒業後、民間の発達障害専門の診療所で働く。当時は、心理職として乳幼児から学齢時を中心とした発達障害児の療育相談を行っていた。13年後、労働組合（電機連合の神奈川）が社会福祉法人を設立する段階で合流。障害者の一般就労を目指す施設の運営に携わる。さらに15年が経過し、50歳を過ぎてから、現職に。知的障害・発達障害のある人の生活上の課題と支援のあり方について、調査研究を行っている。



12:00~13:00

昼休憩

### 午後

13:00~16:00 シンポジウム『知的障がいがある高齢者支援の実践』

(途中休憩あり)

報告①社会福祉法人北摂杉の子会（大阪府）

医療連携推進室長 作業療法士 小林 哲理

報告②NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク理事

社会福祉法人ゆうかり理事長（鹿児島県）水流 源彦氏

報告③NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク監事

NPO 法人ライフサポートはる理事長（佐賀県）福島 龍三郎氏

討論『知的障がい者の高齢化支援～これからのカタチ』

シンポジスト：志賀氏、水流氏、福島氏、小林

司会・進行：社会福祉法人北摂杉の子会常務理事 松上 利男

利用者が高齢化することで、知的障がいのある人たちの高齢化に対応したプログラム、施設環境・設備、医療との連携、長期化した際の入院時の対応、権利擁護等新たな課題が生じて参ります。そこでまず、知的障がいのある利用者の高齢化対策の現状について、3法人から報告していただきます。それを受けて、高齢利用者に対して今後どのような環境調整や地域生活を支える仕組みや制度が必要になるのか、『高齢者支援のこれからのカタチ』について、討論いたします。

### 講師紹介

#### 水流 源彦氏

社会福祉法人ゆうかり理事長 NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク理事 社会福祉士  
信楽青年寮に4年間勤務、祖父が開設した現施設の3代目。当初110名であった入所利用者のグループホームへの地域移行を促進。現在入所利用者60名、グループホーム13箇所を運営。9年前に保育園を開設し、併設の高齢者デイ、ゆうかり学園利用者との何気ない交流を深めている。鹿児島県障害者自立支援協議会会長（2006年～現在）



#### 福島 龍三郎氏

NPO法人ライフサポートはる理事長 NPO法人全国地域生活支援ネットワーク監事  
「障がいのある方たちが地域とともに生涯を通して幸せに暮らしてもらうこと」を理念として佐賀県で地域生活支援を実践している。全国ネット版強度行動障害支援者養成研修カリキュラム・テキスト作成担当。平成25年度福祉医療機構社会福祉振興助成事業「知的障害者を含む世帯の「孤立死」を防ぐ事業」検討委員委員長。平成26年度障害者総合福祉推進事業「意思決定支援の在り方並びに成年後見制度利用促進の在り方に関する研究」検討委員



#### 松上 利男

北摂杉の子会常務理事・大阪発達障害総合支援センター統括  
海外での豊富な研修を踏まえて自閉症などの行動障害に対する施設内での取組みについて様々な研究や実践をしてきている。平成25年度厚生労働省「障害者の地域生活の推進に関する検討会」構成委員、共同研究「サービス提供事業所における虐待防止指針及び身体拘束対応指針に関する検討」「平成25～26年度障害者総合福祉推進事業 強度行動障害支援者養成研修プログラム及びテキストの開発について」の研究検討委員など



#### 小林 哲理

北摂杉の子会医療連携推進室室長 作業療法士 介護支援専門員  
MBA（経営学修士：医療福祉経営分野）  
社会福祉法人北摂杉の子会の作業療法士として各施設・事業所で機能訓練および活動・運動面等でのアドバイスを行う。2012年から重度高齢化対策プロジェクトのプロジェクトヘッド、2014年からプロジェクトでまとめた課題に発展的に取り組む医療連携推進室の室長として重度高齢化対策に携わる

